

平成 22 年 5 月 15 日現在

研究種目： 基盤研究（C）
研究期間： 2007 ～ 2009
課題番号： 19520380
研究課題名（和文） 異なる言語地理学データの総合と比較に関わる研究
研究課題名（英文） Study on the Integration and Comparison of Different Geolinguistic Data
研究代表者
福島 秩子（FUKUSHIMA CHITSUKO）
新潟県立大学・国際地域学部・教授
研究者番号： 80189935

研究成果の概要（和文）：

研究代表者は 1983 年にパソコンを利用した言語地理学データ処理システム SEAL を開発、マニュアルを出版、プログラムを公開するとともに、実際の調査資料への適用結果を論文発表して、「パソコンによる言語地理学」を提唱した。SEAL を開発しはじめた当初から、個別項目の言語地図の描画だけでなく、異なる言語地図の重ね合わせを意図して開発を行い、種々の総合・比較の方法を開発、実践してきた。

最近の研究代表者による研究で、若い世代においても言語地理学的分析が有効であるが、旧世代の調査結果とは異なる分布の様相を示したことから、異なる言語地理学調査データを比較分析する方法の開発と実践にとりくんだ。本研究では、この分析手法をさらに進めて、SEAL を使って既発表の方言データの分析と総合化を行い、若い世代の方言分布に至る言語変化を跡付けたい。

本研究期間中に、複数の機会を捉えて、言語地理学における言語地図作成の意味とそのプロセスについて考察し、SEAL を使った分析例をその中に位置づけて考えることができた。また、新旧の異なる言語地理学データの比較・総合の実例を論文等で発表した。

研究成果の概要（英文）：

In 1983, the main researcher developed a system for personal computers with which geolinguistic data is processed, published a users' manual and its program for the academic use, and presented the analysis applied to actual linguistic data. Since the beginning, not only drawing a linguistic map but also integrating different linguistic maps has been focused.

The main researcher's recent achievement includes demonstrating that the geolinguistic approach is also useful for the data of the young generation and that the distribution is different from that from the older generation. Thus the researcher has developed the method of superimposing linguistic maps from different resources. In this research project, the development of new approaches and techniques was to be sought after and the analysis to examine the linguistic changes from older generation to the younger generation was to be promoted.

The meaning and the process of making linguistic maps was reexamined and was presented at the conferences and the research using the SEAL system was identified as part of the process. The recent changes were analyzed using geolinguistic data obtained at different times.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	500,000	150,000	650,000
2008年度	500,000	150,000	650,000
2009年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	1,500,000	450,000	1,950,000

研究分野： 言語学

科研費の分科・細目： 言語学・言語学

キーワード： 言語地理学、言語地図、日本語方言、ホームページによる公開、言語変化

1. 研究開始当初の背景

研究代表者は、パソコンで動く言語地図作成システム SEAL を開発した当初から、個別の言語地図の作成に加え、複数の言語地図を集計し総合することを行ってきた。SEAL の改訂にあたっては、両方の機能の維持と発展を模索した。複数の言語地図を集計し総合した結果を地図に表示することができることが SEAL の特色であった。

最新バージョンの SEAL version 7.0J においては、異なる言語地図の総合を画面上の重ね合わせで行う 2 種類の新しい方法を提案した。調査地域が共通の言語地図について、さまざまな目的で重ねあわせを行うことができる。一つめのグループ地図は、同種調査（たとえば、同じ調査票を使った違う年度の調査等）のデータを統合するために、同じはんこ指定を用いて繰り返し描画するというものである。二つ目の重ね合わせとして、登録した複数の言語地図を次々に読込・描画するファイルリスト機能の発展的機能として、二つの言語地図を少しずつし色調を変えて重ね合わせて示すことができる。これは、同じ地域において行われた異なる調査（たとえば、古い調査のデータと新しい調査のデータ）の結果を同じ地図上に示して比較したいときなどに有効である。同じ地図上に示すことで、より効果的に言語変化の様子を示すことができる。

以上の成果を踏まえ、SEAL の整備公開を継続するとともに、SEAL 等を用いた言語地図の総合・比較の発展的実践が期待された。

2. 研究の目的

研究代表者は 1983 年にパソコンを利用した言語地理学データ処理システム SEAL を開発、マニュアルを出版、プログラムを公開するとともに、実際の調査資料への適用結果を論文発表して、「パソコンによる言語地理

学」を提唱した。SEAL を開発しはじめた当初から、個別項目の言語地図の描画だけでなく、異なる言語地図の重ね合わせを意図して開発を行い、種々の総合・比較の方法を開発、実践してきた。

最近の研究代表者による研究で、若い世代においても言語地理学的分析が有効であるが、旧世代の調査結果とは異なる分布の様相を示したことから、異なる言語地理学調査データを比較分析する方法の開発と実践にとりくんだ。本研究では、この分析手法をさらに進めて、SEAL を使って既発表の方言データの分析と総合化を行い、若い世代の方言分布に至る言語変化を跡付けたい。

3. 研究の方法

(1)言語地図の作成の意味とそのプロセスについて考えた。

本研究期間中に、複数の機会を捉えて、言語地理学で言語地図を作成するというのとはどういうことかということについて考えることができた。そのきっかけになったのは、国立国語研究所主催の第 14 回(平成 19 年度)国際シンポジウム「世界の言語地理学」(平成 19 年 8 月 22 日・23 日)において、一日目の発表のコメンテーターという役割を与えられたことだった。日中韓および欧米の言語地理学者の発表を横断的に見ることで、言語地図の作成の意味やそのプロセスについて考えが及び、その観点からコメントを行ったのである。このコメントの内容は後に『日本語科学』への日本語の寄稿論文としてまとめる機会を得た(福嶋 2008)。また Web Journal *Dialectologia* Number 1 の Reviews and Summaries として、このシンポジウムについての英語による報告を二日目のコメンテーターである David Heap とともに行った (Fukushima and Heap 2008)。さらに、Methods XIII において、コンピュータ登場後の言語地

図作成のプロセスに焦点をあてて、SEAL による活用例を紹介しながら発表を行った (Fukushima 2008)。

(2)その後、新旧の異なる言語地理学データの比較・総合の実例を論文発表した(次項の研究成果参照)。

4. 研究成果

(1)異なる言語地図の比較

言語地図作成の多様な発展の一段階として、異なる言語地図の比較がある。この中には、異なる言語調査の結果に基づく言語地図の比較が含まれる。まず、同じ調査地域を含む言語地図であっても、全国や地方などより広い地域を対象とした広域言語地図と狭い地域を対象とした微細言語地図では、読み取れる語の歴史のスパンが異なり、比較することでより詳しい言語変化の道筋を明らかにすることができる。また、同じ調査地域であっても、異なる世代を対象とした言語地図は、言語の通時的变化をそのまま言語分布に投影した形で見せてくれる。前者の例として、中国地方五県言語地図(Linguistic Atlas of Five Provinces of West Japan: LAFP)と出雲西南部言語地図(Linguistic Atlas of Southwestern Izumo)の比較における言語地図の総合を、後者の例として、方言文法全国地図(Grammatical Atlas of Japan: GAJ)と短大生の方言(Dialects of College Students in Niigata: DCSN)の比較における言語地図の重ね合わせをあげた (Fukushima 2010)。

(2)言語地図の総合と解釈

言語地図の作成は、語形をそのまま書き込むのでないかぎり、解釈なしに行えないこと

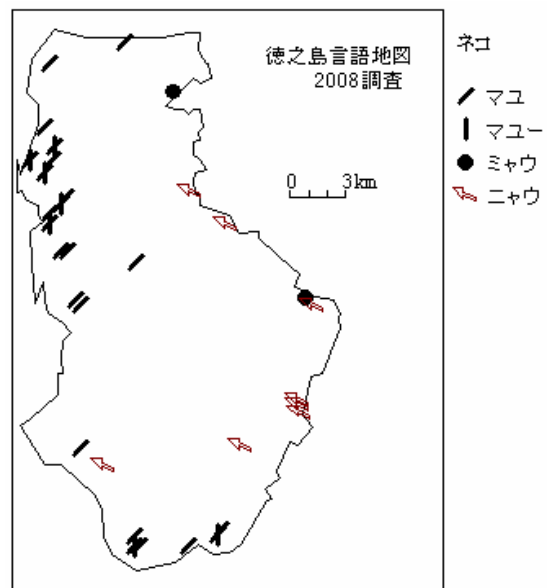
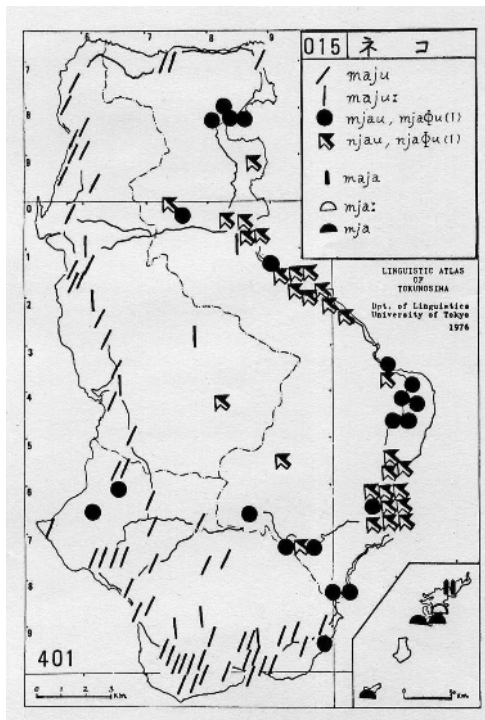
は言うまでもないが、言語地図の総合も解釈に基づいて行われることになる。SEAL を用いて行った言語地図の総合から 2 例を示す。一つめは、小語彙体系の言語地図の総合で、徳之島の親族名称の総合を例にあげて示した。親族名称の各項目の言語地図をまず描き、それを比較したところ、親族名称を語形の分布と位相的特徴から 4 つのグループに分けることができた。グループごとに語形を集計・総合し、それを地図に表わすことで、徳之島の親族名称の階層的構造を明らかにすることができた。二つめは、音韻地図の総合である。音韻地図を集計・総合することで徳之島における音韻体系の地域差を明瞭に示すことができた (Fukushima 近刊)。

(3)異なる世代を対象とした言語地図

学生対象の方言アンケート調査を行い、若い世代の言語状況を示す言語地図を描いてきた。北海道方言として有名なナマラは実は新潟発祥である。本家の新潟で、伝統的な用法のナマラの衰退の一方、新しい用法のナマラの存在を示した (福嶋 2007)。また、ナマラ及びそれ以外の強調表現の分布や、全国的に新方言として名高い「自動車学校」や新潟の新方言と見られる「そろそろ」などの言語地図を作成して、若者言葉における方言の動態を継続的に報告した (福嶋 2009)。

(4)30年を隔てた同一調査表による言語地理学調査データの比較

徳之島において行われた 30 年を隔てた同一調査表による言語地理学調査データに基づき言語地図の作成と比較を行った (福嶋 2010 『異なる言語地図の総合と比較 SEAL2010』 第二部 2 つの奄美徳之島言語地図の比較)。実例の一つを示す。左下の図は 1976 年調査 (『奄美徳之島のことば』) より、「ネコ」の地図である。右下の図は 2008 年調査の言語地図である。



新しい言語地図の分布は以下の様に解釈できる。「マユ、マユーの分布はほとんど変わらないが、ミャウが2地点しかなく、かわりにニャウが優勢になっている。この30年間に、東海岸を中心にミャウからニャウへの変化が進んだと思われる。」

(5)まとめ

言語地理学は、言語地図を用いてその地域の言語史を明らかにしようとする学問である。言語地図をどう読むかということは、実は言語地図をどう描くかということと同義である。分布から歴史を読み取り、その解釈を明瞭に示す言語地図を描くことで、言語変化のプロセスが明らかになる。個々の言語地図作成時ばかりでなく、複数の言語地図や異なる言語地図の総合・比較を行うときにも、研究者による解釈が重要な位置を占める。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 7件)

Chitsuko Fukushima. (2007) "Super-imposing Linguistic Maps to Trace Linguistic Changes." *Linguistica Atlantica* 27-28 2006-2007, pp.40-45. 査読有

福嶋秩子 (2007)「ナマラの現在」新潟県ことばの会『ことばとくらし』第19号 pp.横64-65 査読無

福嶋秩子 (2008)「世界の言語地図作成・活用状況に見る言語地理学の現状と課題」(寄稿論文)国立国語研究所『日本語科学』第23号 pp.5-15. 寄稿論文・査読有

Chitsuko Fukushima and David Heap. (2008) "A Report on the International Conference: Geolinguistics around the World." Web Journal *Dialectologia* 1, 135-156. Reviews and Summaries. <http://www.publicacions.ub.es/revistes/dialectologia1/> 査読有

福嶋秩子 (2009)「新潟の女子短大生の方言 - 自動車学校・そろそろ・ナマラ - 」新潟県生活文化研究会『新潟の生活文化』15号 pp.18-20 査読無

Chitsuko Fukushima. (2010) "Comparing Linguistic Maps from Different Surveys." Web Journal *Dialectologia* 4, 13-22. <http://www.publicacions.ub.es/revistes/dialectologia1/> 査読有

Chitsuko Fukushima. (近刊) "Integrating Linguistic Maps to Show Scholastic Interpretation." Web Journal *Dialectologia* Special issue 掲載確定 査読有

[学会発表](計 2件)

Chitsuko Fukushima. (2008) "Progress in geolinguistics: What has been made possible using a computer?" A paper presented at 13th International Congress on Methods in Dialectology (Methods XIII), Leeds University, Leeds, UK.

Chitsuko Fukushima. (2009) "Making Paradigms of Verbs and Adjectives Using a Dialect Corpus" A paper presented at ICDG, International Society of Dialectology and Geolinguistics. 2009年9月16日 マリボル大学(スロベニア)

[図書](計 4件)

岡村隆博・沢木幹栄・中島由美・福嶋秩子・菊池聡 (2009)『徳之島方言二千文辞典 改訂版』徳之島方言の会 150ページ

福嶋秩子 (2009)「外国語方言の計量」計量国語学会編集『計量国語学事典』朝倉書店 項目執筆 pp.321-321

福嶋秩子 (2010)『異なる言語地図の総合と比較 SEAL2010』新潟県立大学 70ページ

福嶋秩子 (近刊 2010年6月刊行予定)「分布をどう読むか」上野善道監修『日本語研究の12章』所収 明治書院 印刷中

[その他]

ホームページ等

<http://www.unii.ac.jp/~chitsuko/>
言語地理学のへや

6. 研究組織

(1)研究代表者

福嶋 秩子 (FUKUSHIMA CHITSUKO)
新潟県立大学・国際地域学部・教授
研究者番号： 80189935

(2)研究分担者 なし

(3)連携研究者 なし